

会報 文化財壁保存研究会

第2号

平成七年八月二十五日発行

編集 文化財壁保存研究会

発行 京都府下京区猪熊通

〒600 京都市下京区猪熊通

堀小路南入

田代 千治 店内

TEL (075) 371-1676

FAX (075) 343-1331

文化財壁保存

研究会に望むこと

後 藤 佐雅夫

文化財壁保存研究会は平成五年四月二十二日に会が発足以来、会報の発行や研修会の開催など、着実に実績をあげられているところであり、会員の皆様は事業主として、経営されるかたわらの会運営であり、大変であろうと察しられます。

しかし、文化財壁の技術は今後とも伝えていくことが、我々の責務

であり、先人の残した技術は今世紀限りではなく永久に伝えなければなりません。文化財の保存修理は旧来壁の踏襲をされているので問題はありますが、未指定の古建築の修理の時に、近代壁に変更される必要があります。これは左官屋さんの責任だけでなく、施主の考えや単価の点で変更されることとなります。施主に理解して戴

くことが重要であります。理解して戴いても、その技術がなければどうにもなりません。日頃から、研鑽しておく必要があります。

もう一つの問題として材料不足があげられます。ある修理現場で大亀谷産の土を採取していましたが、少し土が不足したため、再び大亀谷にいったのですが、そこにはすでに家が新築されていて採取出来なかったようです。聚楽土や錆壁土等も同じことで、いつでも施主の要求に応じられるものでもなく、常々貯えておきたいのですが、保存にも限界があります。

陶磁器でも、産地名がつく備前焼や信楽焼などは本来、その土地

の土でなければなりません。同じ焼物でも瓦は三州・淡路などの産地名がついても、ブレンド土の場合が多く、また焼肌がイブシや色物の場合では、土そのものの色でないためあまり心配することはありません。むしろブレンドにした方が、地の土ばかりを使うより耐久耐寒性にすぐれているようです。このように代替やブレンドで出来るものはよいのですが、壁の場合は表面そのものが、浅黄・桃山土・大阪土・黄土のほか、蟻灰などの上塗材として使う場合の材料不足は深刻な問題であります。ただ、さきにも申しましたように本物の壁を求める施主がいなくて左官材も代替品で見掛けばかりの壁となってしまう。土壁の良さ、漆喰壁の良さを全文連などを通じてPRしておくことも重要ですが、元請業者の理解もまた重要なことでもあります。その他

の材料として、下地竹・下地縄・すきなど壁に関係する材料にも目を向けて行きたいと思う次第です。佐藤副会長さんは、紙すきのことについて現地調査をされてこれでしたが、会員全員が一つのこと

ば、重要な資料になると思います。私からお願いする研究会の事業として、次のようなものがあります。これは押しつけのものではなく、あくまで私の夢物語であるかも知れません。

一、各地の壁の見学

- 一、若手による文化財壁の実習
 - 一、材料調査と材料の確保
 - 一、土壁・漆喰壁のPR
 - 一、文化財壁技能士の認定
 - 一、選定保存技術保持者の認定をして戴く
 - 一、文化財壁保存技術研修所の開設
 - 一、定期講演会・研修会の実施
 - 一、会報の発行と内容の充実
 - 一、代価表の作成と基準仕様書の作成
- 以上はすでに実施されている分もありますが、何かの参考にして頂きたいと思います。

紙漉の里をたずねて

佐藤 治 男

京都の左官では漆喰に使う紙すきの入手方法には色々ありますが表具屋さんにお願ひして和紙の切端をわけていただくか、建材屋さんから仕入れる紙すき（あまり品質がよくない）又は和紙の古紙を保存し、入用のときに叩いて繊維をほぐして使用していますが、良

五月二十五日かねてより打ち

合わせておきました、会員の中山正雄氏と同行する予定でしたが中島氏急用のため、社員の為保隆義次長供々美濃紙の生産地

の美濃市へ向いました。同市の中心部は古い家並の残る静かな美しい所で市の観光のキャッチフレーズには、（和紙と卯建の町美濃市）として観光と和紙作りを市の有力な産業として力を入れておられる様で市内に卯建のある町並みが保存され、小坂家、今井家、鈴木家等、昔の姿を今もよく保存しておられる所を見て頭の下がる思いでした。一方で修理のしてある建物も有りましたが、殆どところが新しい工法や、新建材を使用した見かけだけの修理で、修理の際には

関係者で良く談合され工事をしないと将来卯建の町並は単なる卯建の家となり技術の伝承、材料の確保等、このままで良いものか考えさせられました。

午後かねてより色々お世話になって居りました美濃和紙伝統工芸士（通産大臣指定）の石原英和氏をたずねました（氏は海外での手漉き和紙の実演に度々招聘され特に英国ロンドンで開かれた日本祭では訪英中の皇太子殿下の御前で手漉き和紙の作業手順を披露された実績がある）石原氏の案内で和紙を漉いておられる方々の作業場に

ゆき色々と参考になるお話を拝聴しました。特に技術保存指定者の澤村氏が決して恵まれた環境ではなく質素な住居、作業場、きびしい作業、そのなかで唯黙々と手を動かす姿、そして一言「きびしい作業でわりにあわない若い者には無理をいって仕事を継がせません」とつぶやかれた言葉が、とても印象的で耳の奥に残りました。私達も同様で皆様方と一緒に考えていかなければならない事だと思います。

さて、今日の目的である紙すきの件ですが、石原氏の御厚意により和紙の里会館にて楮、みつまた、の樹皮より紙に至るまでの工程を見学し、原料のみつまた、楮を頂きました。持帰り見本を作りましたが、みつまたは捌きにくく漆喰には不向きだと思います、そこで楮ですが、国内産は不足がちで中国、タイ国、フィリッピン等から輸入

しているそうです。今回頂きました土佐楮、美濃楮、輸入楮は、自然漂白、薬品による強制漂白をした品々で漂白の仕方により、和紙に優劣が有るそうですが、紙すきの場合にはあまり関係無いそうです。紙すきの命である繊維のながさ、捌き具合など作業上申しぶんありませんでした。氏によれば輸入楮でしたら入手できそうです。作業の省力化、本来の漆喰には最適のすき材だと思います。皆様方のご使用をお勧めいたします。次は石灰に目を向けたいと思います。

(H・S生)



壁の話

田代益市

壁の話といえば、城や土蔵、寺院の土塀各所壁塗大壁面があり、このような大きな壁面を一気に塗り上げるには腕のよい職人を動員しなければならぬのです。そこで、今までに手掛けました中から島原の角屋という重文の揚屋建築がごさいます。先年解体修理がすみ一般公開されております。この建物は日本壁（京壁）の伝統技術がいくつに残っています。まるで壁の見本が並べられている様です。白漆喰、赤漆喰、ねずみ漆喰、本聚楽大阪土、赤壁の水ごね仕上、黄黒赤の大阪磨き、白黄漆喰磨きへっつい（かまど）なまこ漆喰大阪土引き摺など左官技術総仕上がり見られます。その中で青貝の間という部屋があります。目を壁の装飾に使うという事は左官技術にめったにないことで貝の専門家をたずね大阪・神戸各方面を歩き柏原市の青貝師に合い埋め込み螺鈿の技法を指導してもらいました厚さ〇、三mm程のアワビ貝を様々な形に造り出して貝を貼るのり事で、やまだ先生の研究でニカワでなくフノリという結論に達し中塗り仕上げのうえにフノリで貼りつけ色々な模様をつくり上塗した後で目を浮きだす様に土をすき取ります。この様な技法は最初で最後の体験で修理にめぐりあった幸運をかみ締めております。

機会があれば、技法を後世に遺し今後もこの伝統ある技術を継承していく事が私共の使命であるという部屋があります。目を壁の装飾

第3回 研修会と総会終了

五月十二日午後一時より研修会を京都西本願寺滴翠園内滄浪池に臨む保存工事中の飛雲閣(国宝)並びに清浄亭外五棟の見学及び隣接の明治前期の木造洋風建築である龍谷大学本館(重文)の保存工事現場にて京都府教育庁文化財保護課中尾先生を講師に迎えて開きました。桃山時代の遺構や明治になって国を揚げて西欧文化を取り入れた時代の建造物における我々左官職人の先輩達の作業や材料等先生労作の資料をいただき懇切丁寧に説明して頂きました。公務が多忙の中当研修会のため時間を賜り厚く御礼申し上げます。

亦西本願寺様初め関係の皆様方にも研修にご理解を示されご協力有り難うございました。午後四時

事務局 だより

一、全文連より本年度分として五〇、〇〇〇円の補助金を頂きました。

二、二月二十五日全文連西日本ブロック研修会へ田代会長参加(福岡宗像大社)

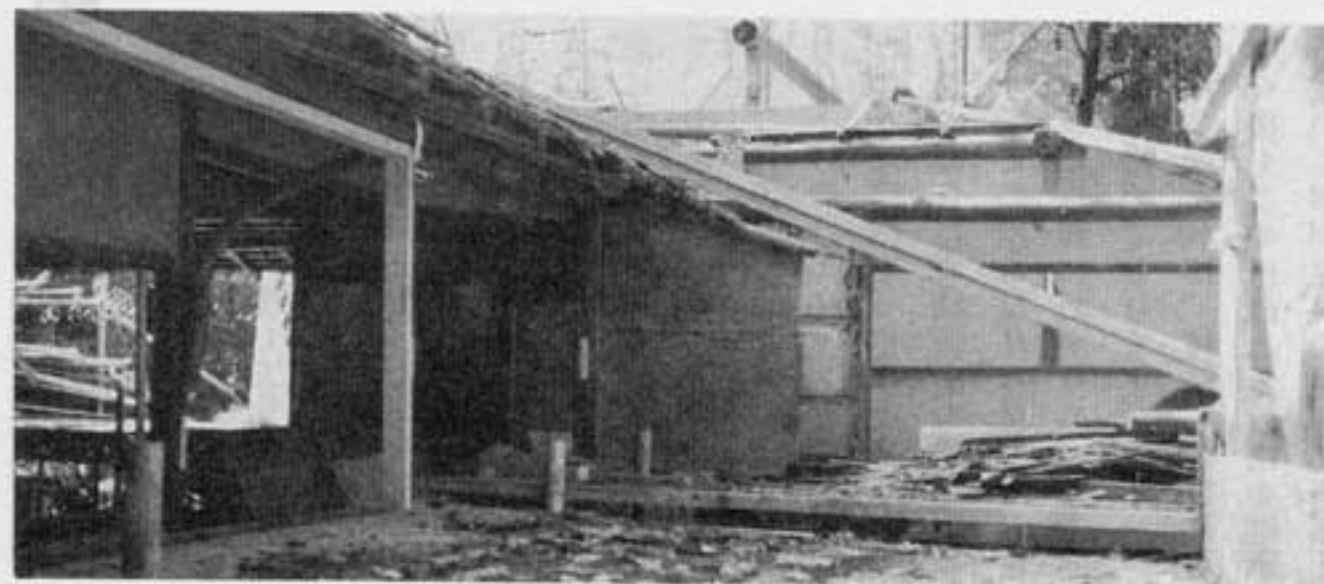
三、五月八日有志四名が全文連後藤事務局長に同行して文化庁及び文化財建造物保存技術協会へ

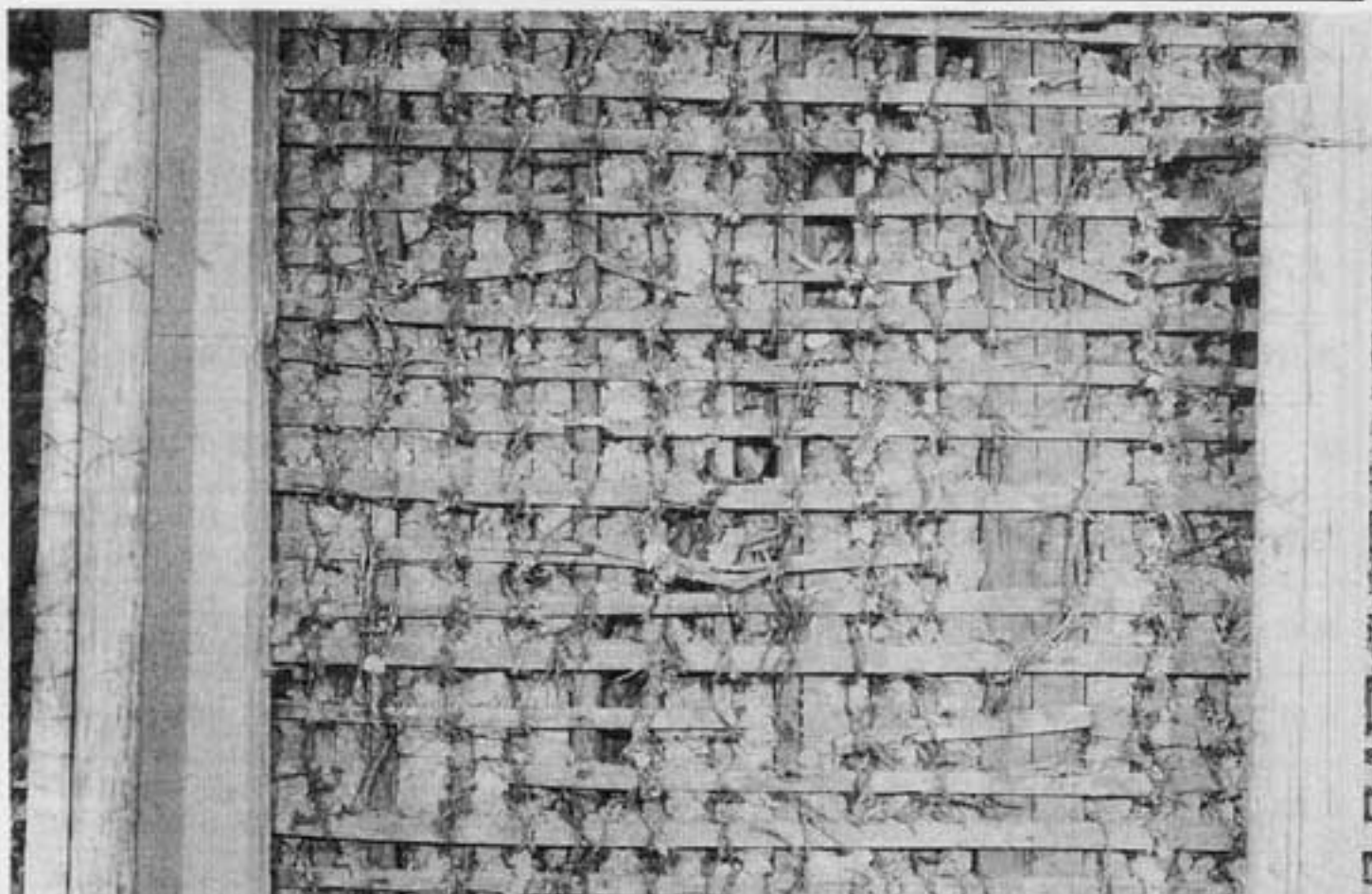


会報発刊挨拶と今後の会へのご指導をお願いに上京、当局よりいろいろアドバイスを受けてきました会員の皆様にお知らせしたとおりです。

四、第四回研修会を秋に奈良方面にて開らく予定です、決定しだい通知いたします多数の出席をお願いします。

工事中の清浄亭

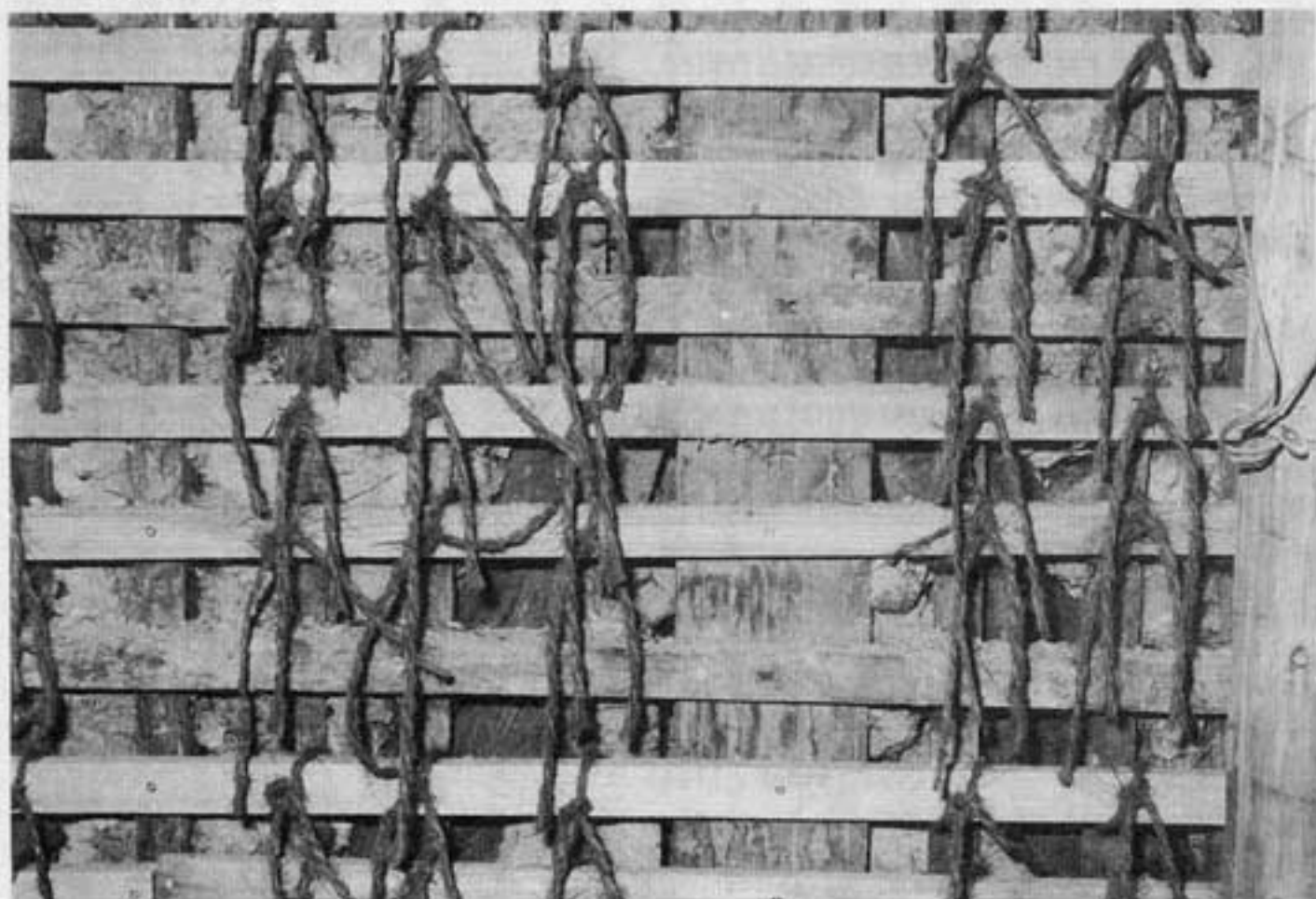




▲ 左側旧木舞（木木舞で、交点は粽髷縄結切り、足の長さ10匁位）

龍谷大学本館壁下地の対比写真

▼ 右側今回修理で補強のため、木舞交点をステンレス木ねじで締付け結切りの足の長さを15匁にする。



会 員 名 簿

平成7年8月現在

氏 名	〒	住 所	TEL・FAX
津田 誠一	520-01	滋賀県大津市下坂本1丁目37-14	TEL 0775-78-0569
堤 栄一	521-13	滋賀県蒲生郡安土町小中501	TEL 0748-46-2132
安達 保信	600	京都市下京区花屋町通間ノ町西入ル天神町411-2	TEL 075-351-4519 FAX 075-351-4519
梅川 功夫	615	京都市右京区西京極牛塚町58-1	TEL 075-313-2707 FAX 075-321-7821
片田 儀齊	602	京都市上京区西洞院中立売下ル	TEL 075-441-7404
佐藤 治男	603	京都市北区衣笠西馬場町33-5	TEL 075-461-4616 FAX 075-461-8419
田代 益一	600	京都市下京区猪熊通塩小路下ル上夷町165	TEL 075-371-6767 FAX 075-343-1331
堀 弥一	600	京都市下京区下魚棚通猪熊通西入ル樽屋町368	TEL 075-371-1066 FAX 075-361-7282
泉 良美	635	奈良県大和高田市野口587-2	TEL 0745-53-5205 (作業場)0745-53-5091
井上 正弘	634	奈良県橿原市今井町4丁目(事務所)	TEL 0744-14-5960 (自宅)0744-22-0322 FAX 0744-22-0322
奥井五十吉	634	奈良県橿原市出合町83-1(事務所)	TEL 0744-24-0818 (自宅)0744-22-3620 FAX 0744-27-6221
辻本 昌一	634	奈良県橿原市観音寺町84	TEL 0744-27-4459 FAX 0744-27-3639
松下 進	630	奈良市紀寺町401-1	TEL 0742-26-2548
松本 光男	634-01	奈良県高市郡明日香村島之庄	TEL 0744-54-3310 FAX 0744-24-2860
中島 正雄	483	愛知県江南市寄木町67-1(中島左官株式会社)	TEL 0587-55-1000 (自宅)0587-54-2266
小林錦四郎	643	和歌山県有田郡湯浅町別所120	TEL 0737-63-5426
廣田 利一	649-65	和歌山県那賀郡粉河町粉河3754	TEL 0736-73-3902
中村 法文	648-02	和歌山県伊都郡高野町高野山26番地	TEL 0736-56-3776
本田 昇	582	大阪府柏原市平野1丁目3-14	TEL 0729-72-0063
山脇 光弘	672	姫路市飾磨区構3丁目524	TEL 0792-33-0268
川添 保	503-13	岐阜県養老郡養老町高田62番地1	TEL 0584-32-1426